

オリンピック・パラリンピックに対する  
興味・関心を高めるオリパラ教室  
～フェンシングを軸として～

学校名 岩国市立修成小学校（山口県）全学年

全校児童数 17名（男子10名 女子7名）

（本実践に係る問合せ先）

電話番号 0827（84）0614

学校メールアドレス [shusei-e@edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp](mailto:shusei-e@edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp)

### 1 実践（研究）のねらい

- (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたオリンピック・パラリンピック教育を推進し、運動・スポーツへの関心を高めることで、子どもの運動習慣の定着・改善を図る。
- (2) 著名なスポーツ選手による講演やデモンストレーションから、自らの生き方について考えるとともに、運動や体力向上についての意欲を高める。

## ○課題を解決するために実践した具体的な取組について

### 1 オリンピアンによる講演会・運動教室に対する興味・関心を高める事前学習

#### (1) 「オリパラを知ろうウィーク」の設定

オリンピアンによる講演会・運動教室開催に向け、興味・関心を高められるよう、全校児童が集う給食の時間に、ランチルームで毎回10分程度ずつ、以下の5つの視点で事前学習を行った。

- 1日目：オリンピック・パラリンピックの意義等
- 2日目：オリンピックの歴史と古代オリンピック
- 3日目：オリンピックの種目紹介
- 4日目：パラリンピックの種目紹介
- 5日目：オリンピックの大会ビジョンと講師・フェンシングの紹介

#### (2) オリンピック・パラリンピック関連図書コーナーの整備

読書活動推進員と連携し、図書室にオリンピック・パラリンピックの関する図書を集めたコーナーを設け、興味がわいたときに、すぐに関連する図書を手に取って読める環境を整えた。

### 2 オリンピアンによる講演会・運動教室の開催

#### (1) オリンピアンによる講演会・運動教室の実施

講師：ロンドンオリンピック男子フルーレ団体銀メダリスト 千田健太氏

目標設定の重要性、一人だけでは成功しないこと、失敗の経験は次に必ずつながるということの3つを軸にお話いただいた。オリンピックのメダルも手に取って見せていただいた。

また、運動教室では、フェンシングの基本姿勢や足の運び方などを教えていただいた。

#### (2) 近隣校との合同開催

日常的に交流している岩国市立周北小学校と合同で開催することで、周北小学校児童のオリンピックに対する興味・関心を高めることができた。

### 3 道徳科の授業での活用

#### (1) 低学年での事例

「オリンピック・パラリンピック」

（日本文教出版 しょうがくどうとく いきるちから 1年生教材）

C国際理解、国際親善の内容項目だったが、「オリンピックに出るために大変な努力があったこと」に触れる児童も多く、講演会を受けての影響が児童の思考の根底にあったように思う。

## ○成果の意義

- 1 「オリパラを知ろうウィーク」期間中に、図書室に設置したオリンピック・パラリンピック関連図書コーナーから本を手に取り、読んでいる様子があり、スポーツへの関心が高まったことが感じられた。
- 2 持久走大会に向けて体育の時間にコースと同じ距離を走り、タイムを計っていくときに、千田選手の話をしたことでタイムを縮めようとする意欲が高まった児童が多く見られた。

## ○今後の課題

- 1 極小規模校であるため、運動やスポーツのロールモデルとなり得る児童の絶対数が少なく、より高みをめざそうとする気持ちを育てることが難しい。
- 2 極小規模校であるため、児童が興味をもったスポーツ（特に集団でのゲームなど）を体育科の学習で十分に楽しむことが難しい。

## ○ 研究内容

### 事前学習「オリパラを知ろうウィーク」

全校児童が集うときにオリパラの説明をした。



### オリパラ図書コーナー

図書室にオリパラ関連のコーナーを設置した。



### オリンピックによる講演・運動教室

千田健太氏による講演会と運動教室を実施した。



### 道徳科の授業での活用

オリパラ教室の次の週、各学級で実践した。



### 自由記述式のアンケートから

高学年児童に、オリパラ教室の前後で自分の中の変化を問う自由記述式のアンケートを実施した。

- オリンピックを見てみようと思った。(6人/9人)
  - フェンシングに興味をもった。見てみようと思った。(6人/9人)
  - オリンピックの歴史や競技のことが分かった。もっと知りたいと思った。(5人/9人)
- ※ 類型化して半数以上だったものを記載した。

### 今後の取組について

キャリア教育との関連付けと、パラスポーツからの人権意識の高揚を図る。

- キャリア教育との関連を図りながら効果的に今回の講演会の内容にふれていくことで、児童が自身のよりよい生き方について考えることができるようにしたい。
- オリンピックに焦点を絞った取組が中心となっていたので、今後はパラリンピックやパラスポーツに焦点を当て、人権教育とも関係付けながら児童の興味・関心を高めていきたい。